

令和6年度 学校法人増田学園 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人増田学園
②法人本部の所在地 〒260-0006 千葉県千葉市中央区道場北1-17-6
千葉聖心高等学校内
電話番号 : 043-225-4151
FAX番号 : 043-227-7278
HPアドレス : <http://www.chibaseishin-h.ed.jp/>

(2) 建学の精神

- 聖心 清らかな心で他者を思いやること
○努力 目標の実現に向け何事にも真剣に取り組むこと
○奉仕 自ら進んで社会に貢献すること

【学祖の意志(信念)】

私の学校の校訓の「努力、奉仕の心に徹せよ」は父の教訓を基として生まれたのであるが、道徳、人間形成の道においては昔も今日も変わりのある筈はなく、むしろ今の社会においてこそ、道徳が必要であると確信している。それ故に、私は私なりに時代に即応した道徳、人間形成の教育を説くことに私の生涯を捧げていきたいと、深く心に決めている。

—増田うめ著「吾が愛の教育9Pより」—

(3) 沿革

昭和22年	4月	千葉洋裁学院創立(千葉市中央区椿森)
昭和32年	1月	学校法人増田学園認可 理事長・学園長に増田うめ就任
昭和39年	1月	千葉女子専門学園と改称
昭和42年	4月	校舎新築移転(千葉市中央区道場北)
昭和44年	4月	保育科開設(保母養成課程)
昭和45年	4月	保育科に幼稚園教員養成課程を開設
昭和48年	4月	千葉女子専門学園附属聖幼稚園設置認可(千葉市美浜区高洲)
昭和51年	4月	千葉女子専門学校及び千葉女子専門学校附属幼稚園と改称
昭和54年	4月	千葉聖心高等学校設置認可(全日制課程普通科)
昭和62年	4月	東館校舎増築
平成20年	3月	校舎移転(現在地)
平成20年	4月	2代目学校法人増田学園長に増田良子就任
平成20年	1月	増田学園校舎改修落成記念式典挙行
平成24年	4月	千葉女子専門学校附属ひじり保育園開園
平成27年	3月	千葉女子専門学校附属聖幼稚園廃園
平成27年	4月	幼保連携型認定こども園千葉女子専門学校附属聖こども園設置認可
平成29年	4月	千葉女子専門学校 文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定
平成30年	1月	同年1月25日千葉市保健福祉局地域福祉課監査指導室の平成29年度社会福祉法人等指導監査(対象:千葉女子専門学校附属聖こども園)
平成31年	1月	同年1月29日付けで文部科学大臣から「平成31年度以降の教員養成機関」としての指定を受ける。(千葉女子専門学校)
平成31年	3月	同年3月28日付けで千葉県知事より「保育士養成課程に係る学則変更」について、31年度の学生から適用通知を受ける。
平成31年	3月	同年3月29日、千葉女子専門学校附属聖こども園園用地東側に隣接

平成31年	4月	する民地を千葉女子専門学校実習用地として取得登記 同年4月8日付けで文部科学大臣から「指定教員養成機関の教育課程の変更」について、平成30年度、平成31年度とも認定
令和元年	9月	同年9月20日付けで千葉県知事から高等教育の修学支援新制度の対象機関として認定（千葉女子専門学校）
令和元年	10月	同年10月1日から「幼児教育・保育」の無償化開始（千葉女子専門学校附属聖こども園）
令和2年	4月	同年4月1日から「高等教育の無償化」を開始（千葉女子専門学校）
令和2年	8月	同年8月19日、千葉県総務部学事課による実地指導監査 実地指導監査対象校（千葉女子専門学校、千葉聖心高等学校、千葉女子専門学校附属聖こども園）
令和2年	9月	同年9月1日「iPad」を導入（千葉女子専門学校）
令和3年	5月	同年5月6日、千葉女子専門学校南側に隣接する民地を学校用地として取得登記
令和3年	11月	同年11月4日、周辺民間住宅（アパート）と千葉女子専門学校旧学生院内寮北側の境界が確定し、その間にある国有地の払下げを受け学園管理用地として取得登記
令和3年	12月	令和3年12月13日、令和3年5月6日に取得登記した学校用地と千葉女子専門学校用地南側の間にある国有地の払下げを受け学校用地として取得登記
令和4年	8月	千葉聖心高等学校東館南側非常階段鉄骨基礎部分の腐食及び亀裂による階段手摺撤去、鉄骨補強、塗装等の改修工事の実施
令和5年	2月	千葉女子専門学校多目的ホール天井照明器具のLED化を図る
令和5年	3月	令和5年3月31日、「学校法人増田学園研究研修棟」竣工
令和5年	4月	千葉聖心高等学校校舎内1階から5階までの各部屋の照明器具及びテニスコート、部室等外エリアの全ての照明器具を撤去し、LED化のための電気工事を実施
令和6年	8月	令和6年8月21日千葉聖心高等学校体育館空調設備設置工事竣工 強力スポットエアコン（室内機・室外機KBHP-GP112-S3）各5台、 架台設備、動力電気工事一式
令和7年	3月	令和7年3月10日 学校法人増田学園都はるかぜ保育園新築工事 竣工（建築面積684.14㎡、延床面積1,152.6㎡、鉄骨造2階建て） 工 期：令和6年6月3日～令和7年3月10日 工 事 費：7億1,280万円 施工業者：旭建設株式会社
令和7年	3月	令和7年3月21日 学校法人増田学園都はるかぜ保育園開園記念式典挙行

(4) 設置する学校名及び所在地

学 校 名	所 在 地
千葉女子専門学校 保育科	千葉市中央区道場北1-21-21
千葉聖心高等学校 全日制普通科	千葉市中央区道場北1-17-6
幼保連携型認定こども園 千葉女子専門学校附属聖こども園	千葉市美浜区高洲2-3-24

○2校1園の成り立ちは以下のとおりである。

ア 千葉女子専門学校 保育科

学祖の意志を継承し、戦後の復興期から女性の自立・幸せ、及び人間形成をめざした教育を実践してきた。洋裁をはじめとする服飾技術と心の教育を柱として始まり70有余年が経つ。その間、時代の要請とともに専門学校は、幼児教育・保育の分野へと転換を図り、昭和44年4月に保育科を開設し保母養成課程（現保育士養成課程）を、昭和45年には幼稚園教諭養成課程をそれぞれ設置致しました。魅力あふれる保育者の養成をめざして半世紀以上になる。卒業生もおよそ7千名となり、幼児教育・保育等の中枢で活躍している。

一方、昭和48年4月には専門学校附属の聖幼稚園、平成24年4月には同ひじり保育園、平成27年4月には二つの園を統合して、千葉市内では最初の幼保連携型認定こども園千葉女子専門学校附属聖こども園を開園し、幼児教育・保育の実践ができるように環境を整え、今日に至っている。

イ 千葉聖心高等学校 全日制普通科（女子校）

昭和45年代以降における我が国の義務教育修了者の高等学校進学率は、高度経済成長とともに平均70%台に伸びていた。都市部においては90%台に迫る勢いであり、当時の文部省は私立高校に40%の受入れを求めていたほどである。千葉県当局においても私学とのバランスを図りながら毎年公立高校の新設を推進していた時代であった。

このような背景にあって、当学園では、千葉女子専門学校の「家政高等課程」を廃止し、昭和54年4月に千葉聖心高等学校（全日制課程普通科）を立ち上げたのである。爾来、学祖の一貫した女子教育への情熱のもと、女性の自立と幸せ、道徳と人間形成をめざした教育実践を展開し現在に至っている。「進学コース」、「総合コース」とともに、平成19年から「こども保育コース」を設けて、千葉女子専門学校及び聖こども園との連携を図りながら保育者の養成にも寄与している。

ウ 千葉女子専門学校附属聖こども園

これからの日本及びグローバルな世界で力強く生き抜く力、社会に貢献できる人材の育成は、幼児期からの教育・保育が大切である。こどもたちの感性豊かな心と体を育み、社会の変化とニーズに呼応した人間形成をめざすことを目的として、昭和48年4月に千葉女子専門学校附属聖幼稚園を、平成24年4月には同ひじり保育園を開園した。

その後、時代の要請を受け、平成27年4月には二つの園を統合し、千葉市内では最初の「幼保連携型認定こども園」として千葉女子専門学校附属聖こども園を開園した。就学前の幼児教育・保育の提供及び地域における子育て支援に寄与しながら今日に至っている。

(5) 施設等の状況

①土地所有面積 29,065.19 m²

内訳：	本部（高校）	(21,425.77 m ²)
	専門学校	(4,762.40 m ²)
	聖こども園	(2,877.02 m ²)
	都はるかぜ保育園	(千葉市借地 m ²)

※都はるかぜ保育園の敷地2,000 m²は都市公園法に基づく千葉市から長期占用許可を受けた借地である。

占用許可期間：(2024年6月27～2054年3月31日)

②建物面積 11,978.668 m²

内訳：	本部（高校）	(6,441.62 m ²)
	専門学校	(3,085.758 m ²)
	聖こども園	(1,767.15 m ²)
	都はるかぜ保育園	(684.14 m ²)

(6) 学生生徒等在籍者数等 (令和7年3月31日現在)

名 称	学 科	募集定員		平成6年4月1日現在		令和7年3月31日現在		
				人数	計	人数	計	
千葉女子専門学校	保育科 (女子)	1年	100	67(8)	131(17)	63(8)	123(17)	
		2年	100	64(9)		60(9)		
千葉聖心高等学校	全日制 普通科 (女子)	1年	200	170	411	151	384	
		2年	200	113		109		
		3年	200	128		124		
聖こども園	保育部	0歳	6	30	4	28	4	
		1歳	9		9		11	
		2歳	15		15		13	
	幼稚舎	3歳	1号	22	42	10	29	9
			2号	20		19		21
		4歳	1号	22	42	16	44	12
			2号	20		28		33
		5歳	1号	22	42	12	47	14
			2号	20		35		34

※ (1) こども園乳幼児の区分
 1号認定児 (保育を必要としない3歳~5歳児) 180名 (推薦・併願等)
 2号認定児 (保育を必要とする 3歳~5歳児) 20名 (一般)
 3号認定児 (保育を必要とする 0歳~2歳児) 200名 (合計)
 ※ 令和6年度 全体の学生生徒等人数 (当初総数 690名 年度末総数 658名 差異 32名減)

(7) 歴代理事長・学園長

[理事長]	初代理事長 (財団法人含む)	増田 うめ (昭和26年~昭和34年)
	第2代理事長	増田 清 (昭和35年~昭和59年)
	第3代理事長	増田 浩 (昭和60年~平成16年)
	第4代理事長	増田 和人 (平成17年~)
[学園長]	初代学園長	増田 うめ (昭和26年~平成8年)
	第2代学園長	増田 良子 (平成20年~)

(8) 法人役員等の状況 (令和7年3月31日現在)

① 理事 (旧寄附行為規定6名~8名)

No.	氏名	就任年月日	態様	備 考
1	増田 和人	H17.4.1	常	理事長
2	山岸 信和	H28.4.1	常	副理事長
3	増田 良子	H20.4.1	常	法人学園長 (現千葉女子専門学校長)
4	星野 和彦	H12.7.18	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
5	前嶋 薫	H25.4.1	非	元株式会社監査役、元株式会社代表取締役社長、元銀行執行役員
6	足立 叡	H29.7.24	非	元大学長・元大学教授、元千葉女子専門学校非常勤講師
7	澁谷 正	R 5.4.1	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
8	三浦 勤治	H30.4.1	常	現千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長

② 監事 (旧寄附行為規定2名)

No.	氏名	就任年月日	態様	備 考
1	藍原 誠壽	H26.4.1	非	元大学AO入試センター教授、元県立高等学校長
2	尾地隆一郎	R 5.4.1	非	前株式会社監査役、元株式会社代表取締役社長、元銀行常務執行役員

※ 「態様」欄は、常勤役員等の場合は「常」、非常勤役員等の場合は「非」と表示。

③ 評議員（旧寄附行為規定13名～17名）

No.	氏名	就任年月日	備考
1	増田 良子	H20.4.1	寄附行為第24条第1号
2	早坂 恵子	R5.4.1	寄附行為第24条第2号
3	日暮さつき	H25.4.1	寄附行為第24条第2号
4	中野 武彦	H3.4.1	寄附行為第24条第2号
5	日蔭野貴之	R5.4.1	寄附行為第24条第2号
6	千葉 良夫	H26.4.1	寄附行為第24条第2号
7	増淵恵理子	H27.4.1	寄附行為第24条第3号
8	齊藤 松子	R2.4.1	寄附行為第24条第3号
9	星野 和彦	H12.7.18	寄附行為第24条第4号
10	山岸 信和	H24.1.10	寄附行為第24条第4号
11	三浦 勤治	H30.4.1	寄附行為第24条第4号
12	谷田部倫輝	H4.4.1	寄附行為第24条第5号
13	岡部 妙子	H5.4.1	寄附行為第24条第5号
14	増田 和人	H17.1.25	寄附行為第24条第6号

(9) 教職員数（令和7年3月31日見込み）

区分	本部		千葉女子専門学校		千葉聖心高等学校		千葉女子専門学校 附属聖こども園		合計		
	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	
教員	常勤	0	0	18	15	36	36	36	36	88	87
	非常勤	0	0	17	18	14	14	6	7	37	39
職員	常勤	5(3)	6(3)	3	3	0	0	4	4	12(3)	13(3)
	非常勤	2(2)	2(2)	2	3	0	0	2	2	6(2)	7(2)
合計	7(5)	8(5)	38	39	50	50	48	49	143(5)	146(5)	

注 記 ・常勤職員（正規職員の勤務時間と同等の勤務する者を含む）、非常勤職員（常勤職員以外の者）
 ・（ ）内は兼務職員の内数
 ・こども園の常勤職員数には、令和6年4月1日から千葉市との共同保育等を担当する3名が含まれている。
 また、年の途中でパートの保育士9月に1名、2月1名を採用した。
 ・事務局常勤事務職員を9月に1名採用した。

II 令和6年度 事業活動報告書の概要

学園および2校1園の令和6年度の主な事業活動状況については、以下のとおりです。

●令和6年度学園としての取組み

(1) 新設保育園（都はるかぜ保育園）の整備事業

- 令和3年 4月 千葉市「公立保育所の施設管理に関する基本方針」公布
- 令和4年10月 千葉市「千葉市都保育所建替実施計画」策定
- 令和5年 6月 「千葉市立都保育所の立替え、民間移管に係る新設保育園の整備・運営法人」として立候補及び申請
- 令和5年 9月 運営法人の決定を受ける
- 令和6年 4月 園長候補者および主任保育士、並びに6名の保育士を採用し千葉市との共同保育を開始
- 令和6年 5月 同年5月29日に園舎新築工事の請負業者を決定するにあたり、制限付一般競争入札を行う（旭建設株式会社に決定）
 【工期】令和6年6月25日～令和7年3月10日
 【構造】鉄筋コンクリート造 2階建て
 【床面積】1F：713.60㎡（保育室3室、多目的室、厨房、事務室）
 2F：512.17㎡（保育室3室、遊戯室）ほか
 【価格】7億1,280万円
- 令和7年 3月 同年3月10日に新築園舎の引渡しを受け、同年3月21日に保育園開園記念式典を挙げる

【園 名】「学校法人増田学園都はるかぜ保育園」と命名

【保育理念】子どもの人権や主体性を尊重し心身ともに健康・安全で情緒の安定した生活の場を保障し、健康な育ちを支える

【定 員】110名

【実施事業】通常保育のほか、延長保育、要配慮保育、保育相談など

【開園時間】7時から20時まで

【給 食】自園調理

(2) 共同保育等について

千葉市都保育所の在園児および保護者との信頼関係を築き、移管後の保育園生活が安心して過ごすことができるようにすることを目的として、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間を千葉市都保育所の保育士とともに、当法人が採用した6名の保育士と共同保育を実施してきた。新園開園後は担任を想定していることから、一定のローテーションを組んですべてのクラスの保育に従事してきた。

また、所内共同研修やミーティングなどをとおして、園児ひとり一人の発達状況、配慮事項、保護者の情報などの共有化に努めてきた。園長予定者および主任保育士予定者も、月4回程度年間行事等に参加するなどして、運営状況の把握に努めてきた。更に、新園での保育目標、保育課程、クラス編成、職員シフト、研修体制、施設設備の整備、備品消耗品の整備、安全対策、自園給食の実施、人員の確保など、さまざまな準備作業の取組みについても、6人の職員や事務局、市や他の関係機関等のご指導及びご協力いただきながら進めることができた。

(3) 施設設備の整備対策等

これまでも照明器具のLED化、ICT教育の一環としてiPadの導入、空調機の更新など、学習環境の整備に取り組んできたところですが、令和6年度の中で最も大きな整備は高等学校の体育館に空調設備の設置となります。いわゆる体育館の冷房化です。

近年は空調設備工事にも補助金が活用できるようになり、体育館の冷房化を推進している学校が増加している。夏場の暑さ対策もさることながら、本校の場合は近隣住宅と隣接している関係もあり、窓や扉を開放していると、騒音に対する苦情が出てくるわけですが、こうした問題解決を図る意味でも体育館の冷房化は必要なものとして取り組んできたところではあります。工事の概略は以下のとおり。

工 事 名：千葉聖心高等学校体育館空調設備設置工事

強力スポットエアコン（室内機・室外機 KBHP-GP112-S3）各5台
架台設備、動力電気工事一式

工 期：令和6年7月20日～令和6年8月21日

工 事 費：2,277万円

施工業者：株式会社千葉エンジニアリング

(4) 近隣地域との共生について

① コロナや高齢化の関係で、地域のお祭りが途絶えていたが、令和5年度から規模や内容を変えて再開されていたようで、その中で、昨年度から高校生の参加依頼があった。昨年度は地域防災をテーマに実施され、起震車の体験を一緒にさせていただいた。令和6年度は吹奏楽部が参加して、お祭りを盛り上げるのに一役かっている。参加することで地域のみなさんと交流を深めることができた。

また、生徒会役員（希望者含む）を中心として地域清掃活動を行った。

学校周辺から東千葉駅周辺までを30分から1時間程度で年10回ほど、ごみ拾いを行って社会貢献や自己啓発の一助とした。

一方で、日頃、部活動の騒音等でご迷惑をおかけしていることもあり、更に地域との交流を推進していくことが一つの課題である。

② 現在、福祉保育推進室が中心となり、地域とのつながりを重視したイベント活動等を展開している。卒業生のボランティアでのサポートもあり、近隣の小学生を招いての「こいのぼりホットケーキ」を作る教室、ネイチャーゲームやクッキングなどで交流を深めることができた。また、実習のノウハウを学び合う目的として「先輩から後輩へ」

と銘打った講座を2回ほど開催することができた。

- ③ 聖こども園では近隣小学校・中学校等の交流や、未就園児教室とおして近隣の母親等との子育て交流等を実施し、こども園に対する理解を深めていくこととしている。
- ④ 新設の保育園の立ち上げにあたっては、近隣地域との共生にむけて何度も協議しながら進めてきた。様々な意見があったことは確かなので、問題等が生じないように今後も耳を傾ながら4月からの保育運営に努めていく。

●2校1園としての取組み

2校1園の令和6年度事業活動の状況については、当学園のこれまでの歴史や経営方針をふまえながら、専門学校では、笑顔あふれる保育者の育成と就職支援を、高校では基礎基本を重視した学び直しと希望の持てる進路開拓を、聖こども園では遊びをとおした人間形成と子育て支援を行い、それぞれの教育機関としての役割を果たすべく、1年1年をしっかりと取り組んできたところ です。

(1) 千葉女子専門学校

【教育目標】

- 本学園の建学の精神である「聖心・努力・奉仕」に基づき、豊かな感性と表現力をもった保育者を育成する。
- 幼稚園教諭・保育士養成校としての長年の伝統を生かし、乳幼児教育をライフワークとし日々研鑽・成長する保育者を育成する。
- 教育にあたっては、個々の学生の資質や個性を十分に把握し、個々に応じた綿密な教育の実現を目標とする。

【質の向上・充実】

- 実践に即した開講科目及び教育内容の精選に取り組んだ。
- 学生には、授業に対する意見等を聞くなどしながら授業展開してきた。
- 教員自身も、各種セミナーへの参加や研究レポートの作成をとおして研究と自己研鑽を重ね、授業改善や指導力の向上を図り、質の高い教育の提供に努めてきた。
- 教室内の授業態度も落ち着いており、その効果が現れていると考えている。

【現場に直結した実習指導の充実】

- 本年度も千葉女子専門学校附属聖こども園のほか、他の幼稚園・保育園、障害者施設等のご協力をいただきながら教育実習及び保育実習並びに施設実習を実施した。
- 1年生：5月～6月（教育実習①②）9月（教育実習③）11月（公演実習④）1月（教育実習⑤⑥）2月（保育実習Ⅰ）
- 2年生：5月（教育実習）6月～8月（施設実習）9月～10月（保育実習Ⅱ）

【学校行事】

- 「入学式」については、4月2日（火）10：00から大ホールにおいて入学生（66名）のみを対象として挙行了。外部の来賓、保護者の出席をいただき実施した。
- 「ファーストステップ研修」の実施「4月4日（木）」9：00～12：30。
実施内容は、今後の学校生活における心構えや保育に関連した教師の講話、カリキュラムの概要、ペープサートやパネルシアター、音楽表現遊び、絵本の読み聞かせなどと共に、オリエンテーション的な内容を含めて実施した。
- 「七夕まつり」7月4日（木）に実施。聖こども園の園児を招いて行った。
笹竹に短冊などの装飾をして玄関や大ホールに置き、また、歌や手遊び、パネルシアター、ダンスや盆踊りなど、七夕にちなんだ表現活動をとおして伝統行事を楽しんだ。
当日は千葉テレビとJ：COM千葉の取材があり、夕方にはニュース番組等で放映された。
- 「学園祭（りんどう祭）」11月8日（金）～9（土）に実施。
今年のテーマ「十人十色 夢に色を塗ろう。」とし、10時から15時まで一般公開をした。
発表内容は、「テレビ大戦争、くれよんのくろくん、しらゆきひめ、アナと雪の女王」など。
また、学生が授業内で制作した作品や教材の展示、福祉保育推進室では、おにぎり弁当、パンやカレーの販売を行なった。

○「卒業式」3月14日（金）10：00から大ホールにて挙行。

来賓出席のもと、60名が卒業し、そのほとんどが保育者として就職することができた。

【高校・聖こども園との連携活動】

- 高校の「こども保育コース」を専攻している生徒への学習支援や実習指導。
 - 調理実習授業の際の施設設備等の借用等により連携強化を図っている。
 - 聖こども園については、学生の教育・保育の実習先の一つとして指導をお願いしている。
- また、こどもたちには、学園祭の見学に来ていただきながら交流を深めている。

【就職支援活動】

- クラス担任制により学生と教師がコミュニケーション活動の充実を図っている。
何でも相談できる環境づくり、また、就職担当職員とともにきめ細かな就職指導やサポートを組み合わせながらその支援活動を実施してきた。これは本校の特徴であり、その特徴や強みを生かしながら学生に対する支援活動の充実を図ってきた。
- 面接や履歴書の作成指導を実施した。
就職の決め手となる学生の良い面を引き出すための「面接指導」及び分かりやすく好感の持てる履歴書の作成指導を行った。
- 「就職活動体験報告会」を実施し、就職の決まった2年生が、自身の活動経験をもとに1年生にアドバイスをするなど、就職活動の参考となるようにしている。
- 「就職合同説明会」を2回実施。
千葉市民間保育協議会および船橋市民間保育協議会と連携した就職説明会をそれぞれ開催した。県内の幼稚園・保育園等に参加していただき、経営方針や園の特徴、職場の環境や労働条件等について、具体的に知ることができた。
- 「公務員試験対策講座」の実施。
公立の幼稚園・保育所等への就職に向けて、「公務員試験対策講座」を実施した。一般教養、専門科目、小論文、面接の指導を行い、また、模擬試験を実施して希望が遂げられるように支援している。

別表（1） 卒業生の進路状況

（令和7年3月31日現在）

種別		人数	割合	専門職希望割合	専門職就職率
専門職	保育園（所）	37名	61.7%	98.3%	100%
	こども園	4名	6.7%		
	幼稚園	8名	13.3%		
	児童養護施設	1名	1.6%		
	障害者支援施設	5名	8.5%		
	乳児院	2名	3.3%		
	生活介護施設	0名	0.0%		
	公務員	2名	3.3%	船橋市、千葉市	
その他	1名	1.6%			
合計		60名	100%		

※例年と同様に公務員（市保育所）と施設への就職者のほか、何といたっても保育園への就職が約半数以上となっている。

【広報活動の充実強化】

- 高校訪問等の実施
入学者の獲得は厳しい状況にあるが、県内の高等学校を中心に学校訪問や進路ガイダンス等に積極的に参加し、本学の良さや魅力をアピールしながら広報活動の充実強化を図ってきた。
- オープンキャンパスの一層の工夫と充実を図った。
年6回程度実施したが、体験講座（工作遊び、手遊び、音楽表現など）や、学校概要（教育

課程、実習、就職など)、入試要項の説明や校内見学などを丁寧に実施した。

また、模擬授業を通して本学の指導内容の理解と興味を深めてもらう工夫を行った。

○学校案内、パンフレット等の工夫や広告媒体の活用を行った。

○入試相談会を導入した。初年度でもあり参加者は少なかったが、オープンキャンパス等ではできない個別の相談ができた。次年度から早い時期から進めていきたい。

【教育環境の整備充実】

○校舎内外の安全・安心かつ清潔な環境の継続的維持に努めた。

○令和6年度は、2階通路に空気循環の改善を図るための換気扇を3か所設置し、日差し等を遮断することを目的としてシェードを1か所の取付工事を行った。

○補修・修理箇所については、早期対応を心がけていきたい。

【諸課題等】

○次年度に向けた課題等

① 総合型選抜入試を導入する。

② 学校案内パンフレットを全面改訂する。

③ 高校生が実際に保育現場を訪問する、保育園見学・体験ツアーを実施する。

④ ホームページの内容をリニューアルする。

⑤ オープンキャンパスの内容を再検討する。

⑥ 将来保育者として役に立つ授業内容の改善を積極的に行う。

(2) 千葉聖心高等学校

【教育目標】

「聖心・努力・奉仕」の建学の精神を尊重し、ものの見方や考え方の基礎を身に付けることに重点をおいた教育を行うことによって、倫理観・人生観を備え持って、世のため人のために尽くすことのできる魅力ある女性の育成をめざす。

(1) 心豊かな礼儀正しい自立した女性の育成

(2) 確かな学力を身につけた行動力のある女性の育成

(3) 学校・家庭・地域の連携による社会に貢献できる女性の育成

【学習指導の充実強化】

○本校の生徒への指導の中心は「基礎基本の定着」であるため、引き続き、分かりやすく丁寧な授業の組み立てと展開を進めている。授業のほかに、学び直しであるJITAN学習、個別指導などをおして基礎学力の底上げに注力してきた。また、ICT機器の活用や積極的かつ能動的に学べる授業の実践に取り組んできた。

○今年度も他の副教材とともに「スタディーサプリ」を用意し、また、到達度テスト等をおして学習内容の確認を図りながらその充実を図った。

○得意科目は更に伸ばしながら自信をつけてもらう。苦手な科目であっても逃げずに、努力する態度が持てるように、個々にあった学習指導に努めてきた。

○2025年度からの新教育課程全面実施に伴って、学習の目的に合った教育内容を生徒に提供できるようにするため、進学クラスやコース別クラス等の必修科目又は選択科目の拡大を行った。

【生徒指導の充実】

○全体としては、落ち着いた学校生活を送っている生徒ばかりであるが、「社会に喜んで迎えられる心豊かな女性の育成」をめざして、朝の校門指導での声掛け、服装や言葉遣いの指導等をおして取り組んでいる。

○SNSによる問題が発生しないようにとすることで、年に複数回の啓発指導や注意喚起等をし、情報モラル教育を推進している。

○いじめを見逃さない学校体制を強化している。

○生徒理解に全職員で取り組めるように相談体制を強化している。

【進路指導の充実】

○生徒のニーズに合った本校独自の進路指導をめざして、推薦・総合型の入試対策を強化、千

葉女子専門学校との連携強化、また、2学年末からのガイダンス、担任同士の連携、外部イベントの有効活用を図るなど、就職指導のシステムの強化を図った。

○各学年における計画的な進路指導を実践するように心がけてきた。

○保育とともに、看護・医療系の進学希望者受験対策の強化を図ってきた。

令和6年5月27日に東都大学と高大連携協定を結び、また、看護医療系進学サポートプログラムを策定し、現地ガイダンスや実習体験を行ってきた。

○就職活動についても、希望者の殆どは就職を果たすことができたが、近年は減少傾向にある。

2024年度 総数124(178)名

大学	短大	専門学校	千葉女子専門学校	就職	その他
33(41)	13(22)	46(69)	12(25)	7(9)	13(12)

・()内は前年度の人数である。

・進学率83.8%。また、学校斡旋の就職決定率は100%。

・千葉女子専門学校を除けば「大学・短大」と「専門学校」への進学人数はほぼ同数。

2024年度 コース別 進路実績

コース別	大学	短大	専門	就職	女専	その他
こども保育	6(8)	8(15)	9(4)	0(0)	12(25)	1(1)
進学	13(24)	2(4)	9(23)	0(2)	0(0)	1(1)
総合	14(9)	3(3)	28(42)	7(7)	0(0)	11(10)
合計	33(41)	13(22)	46(69)	7(9)	12(25)	13(12)

・()内は前年度の人数である。

・進学コースでは、大半が4年生大学、加えて、専門学校進学者の多くは看護医療系などの難関校への進学志向が高い。

・総合コースでは、若干専門学校への進学志向が高いが、大学進学も多い。また、就職する生徒も多く、他のコースよりも選択肢が広がっている。(受験方法:85%が総合型)

【特別活動(部活動)の充実】

特別活動では、生徒の自主性を尊重しながら指導や支援に職員全員で取り組んでいる。

○部活動は、生徒にとって仲間と苦楽を共に過ごしながら、自分自身の心身を成長させることのできる時間・空間であり、重要な教育活動の一環となっている。令和6年度の主な部活の結果は以下のとおり。

○各種大会の結果(再掲)

①ソフトテニス部

大会名:令和6年度関東高等学校ソフトテニス大会千葉県予選会

団体戦 ベスト16位 個人戦 1ペア出場 5位入賞

大会名:令和6年度千葉県高等学校総合体育大会ソフトテニス大会

個人戦 1ペア出場 5位入賞

大会名:令和6年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス大会(長崎県)

団体戦 ベスト32位

大会名:令和6年度若潮杯ソフトテニス大会

個人戦 準優勝

大会名:令和6年度千葉県高等学校千新人ソフトテニス大会)

団体戦 ベスト32位

②バドミントン部

大会名:令和6年度関東高等学校バドミントン大会

団体戦 ベスト16位

大会名:第77回千葉県高等学校総合体育大会バドミントン競技大会

団体戦 ベスト5位

個人戦 ダブルス2回戦進出 シングルス2回戦進出

大会名：令和6年度千葉県高等学校1・2年生バドミントン大会
個人戦 1年シングルス3位、ベスト8位、ベスト16位
2年シングルス2回戦進出

大会名：令和6年度千葉県高等学校新人体育大会
団体戦 5位
個人戦 ダブルスベスト16位、32位
シングルスベスト16位

大会名：令和6年度第30回千葉県私立高等学校バドミントン選手権大会
団体戦 5位進出

③テニス部

大会名：令和6年度千葉県高等学校総合体育大会
団体の部 出場

大会名：令和6年度千葉県高等学校体育連盟テニス専門部第3・7地区1年生大会
個人戦 優勝

④吹奏楽部

大会名：令和6年度第66回千葉県吹奏楽コンクール
高校生の部 B部門（小編成の部）銅賞

大会名：令和6年度第37回千葉県マーチングコンテスト
B部門（小編成の部）金賞

大会名：令和6年度第36回千葉市アンサンブルコンテスト
混合部門 混合7重奏 銀賞
金管部門 金管4重奏 銀賞

⑤カーレット部

大会名：第3回千葉県高等学校カーレット交流会 準優勝

大会名：愛国学園大学撫子杯2024年カーレット大会

Aチーム 総合優勝
Bチーム 総合準優勝
Cチーム Bブロック優勝
Dチーム Cブロック優勝

大会名：全国選抜カーレット選手権大会 優勝
※フジテレビ 早起きTV鍵<キラヒト>に出演

⑥剣道部

大会名：令和6年度関東高等学校剣道大会千葉予選会
団体戦 ベスト32位

大会名：令和6年度千葉県高等学校総合体育大会剣道大会
団体戦 ベスト32位

大会名：令和6年度全国総合体育大会千葉県第7地区予選会
個人戦 3位

大会名：令和6年度千葉県総合体育大会剣道大会
個人戦出場

⑦バスケットボール部

大会名：令和6年度関東高等学校バスケットボール選手権大会千葉県第7地区予選会
敗者復活2回戦敗退

大会名：令和6年度全国総合体育大会千葉県第7地区予選会
県大会代表決定戦 敗退

大会名：令和6年度全国高等学校バスケットボール選手権大会千葉県予選
3回戦敗退

大会名：令和6年度千葉県新人大会第7地区予選

敗者復活戦2回戦 敗退

大会名：令和6年度千葉県U17リーグ地区リーグ戦出場

③軽音楽部

大会名：第8回ガールズバンドコンテスト出場

大会名：第13回千葉県高等学校軽音楽新人コンテスト出場

大会名：アリオ曾我ライブ「ロック・ラフェスタ」出演

大会名：令和6年度高校生バンドフェスティバル「CFES2024」出演
県大会代表決定戦 敗退

【主な学校行事への取組み】

行事をとおした「体験や学び」は、有形無形に生徒の成長に寄与するものであり意義深いものである。令和6年度諸行事の実施概要は以下のとおりである。

○【第46回入学式】 4月9日(火) 10:00～ 会場：千葉聖心高等学校体育館

4年間にわたりコロナの感性症対策の一環として千葉市民会館で実施してきたが、今年度から自校体育館行うこととした。保護者、来賓等を招待し、5クラス170名の新入生を迎えることができた。

○【校外学習】

4月18日(木)に校外学習として1年生は終日マザー牧場、2年生は横浜カップヌードルミュージアム、赤レンガ倉庫、ワールドポーターズを順番に見学し、3年生は上野の精養軒でテーブルマナーを兼ねて昼食をとり、その後、西洋美術館、科学博物館、又は上野動物園の好きなところを見学した。これまで校外学習は、ディズニーランドや中華街、八景島等、殆ど同じ場所であったが、今年度は内容を変えて実施した。天候にも恵まれて生徒の良き思いでづくりができたと考えている。

○【文化祭(りんどう祭)】 1日目 9月21日(土) 9:00～15:00

2日目 22日(日) 9:00～12:00

今年のテーマは、「魔法みたいな1日を！-聖心ホグワーツ-2024」であった。

在校生の保護者、卒業生、中学生等にも来場の案内をし、日頃の授業での作品展や部活動の紹介、油絵やイラスト、家庭科被服作品や華道部の展示、食べ物では、マドレーヌや焼き菓子の販売、また、ゲームでは射的やヨーヨー釣りなどで楽しんでもらうことができた。

体育館での吹奏楽部や軽音楽部の演奏も、大勢の人が鑑賞に来てくれて、今後の活動の励みにもなったようである。

○【球技大会】6月21日(金) 9:00～15:00 会場：千葉公園総合体育館

開催テーマ：「YohaS アリーナ ～本能に、感動を！～」

競技種目は、バドミントン、ドッジボール、バレーボールに、昨年からフットサルを加えて4種目で、それぞれクラス対抗のトーナメント形式で試合を行った。

○【体育祭】10月9日(水) 9:10～14:55 青葉の森陸上競技場

16クラスの対抗戦で実施した。種目は、綱引きやクラス対抗リレー、ボール運びリレー、教員も参加しての部活対抗リレーなど、トラックやフィールドをフルに使ってプレイすることができた。大きな事故やケガもなく、楽しく終えることができた。

○【修学旅行】令和7年2月6日(火)～2月9日(金) 3泊4日 沖縄県

現2年生が対象で、目的は、沖縄独自の歴史や文化にふれ、また、戦争被害にあった足跡を辿ることで平和や安全について考える契機とする。団体行動をとおして協調性やコミュニケーション能力を高めることであり、南部ガマ、平和記念資料館、ひめゆりの塔、美ら海水族館、海洋博公園、むら咲村体験学習、国際通り観光などを見てまわった。無事に日程を終えることができ、生徒も良い思い出づくりができたようである。

○【予餞会】令和7年2月27日(水) 9:05～12:45

令和6年度は体育館での発表とした。学年、部活動、有志の発表をそれぞれ行った。

3学年の先生方の発表もあり、生徒は学校生活の最後の思い出を楽しんでいた。

- 【卒業式】 令和7年3月1日(月) 10:00～ 会場：千葉聖心高等学校体育館
第44回卒業証書授与式として挙行。今回から在校生を代表して2年生の生徒が参列し、124名の卒業生を祝福。それぞれ将来の夢に向かって力強く巣立っていった。

【広報活動の取組み】

入学者の獲得のための広報活動については、目標を設定して取り組んでいるが、少子化や年々変化する受験環境の中でなかなか厳しいものがある。今年度は前年度並みに目標を達成することができたが、中学校訪問の強化とともに、オープンスクール、個別相談会や入試説明会、web出願説明会等、引き続き、目的や手段を工夫しながら募集活動を行ってきた。

この学校で学んでみたい、通いたいと思ってもらえるような学校の魅力度をアピールしてきたが、次年度も、より一層高めることができるように、更に原因分析しながら募集活動を展開していかなければならない。

○【学校説明会（オープンスクール）】

- 1) オープンスクールの開催 (9:30～12:00)

7月20日(土) 全体説明・コース別説明・スクールツアー・個別相談

8月21日(土) 全体説明・保育コース体験・スクールツアー・個別相談

8月31日(土) 全体説明・模擬授業体験・スクールツアー・個別相談

- 2) 個別相談会の開催 10:00～12:00

りんどう祭公開「9月22日(日)」

平日相談会「11月26日(火)～11月28(金)」

- 3) 入試説明会 9:30～12:00

10月19日(土) 全体説明(入試関係)、コース別説明・スクールツアー・個別相談

10月26日(土) 全体説明(入試関係)、保育コース説明・スクールツアー・個別相談

11月9日(土) 全体説明(入試関係)、公開授業、部活動体験・個別相談

11月16日(土) 全体説明(入試関係)、コース別説明・スクールツアー・個別相談

11月23日(土) 全体説明(入試関係)、保育コース説明・スクールツアー・個別相談

- 4) web出願説明会(個別相談含む)

9:30～12:00 12月7日(土)

○【中学校教員対象説明会】 申込不要 「9月6日(金)」開催 14:00～

中学校の管理職や進路指導担当の先生方を対象として、本校の理解を深めていただくことを目的として毎年開催している。レファレンスルームにて開催し、自由に授業やJITAN学習を見学していただいた後、学校紹介やこども保育コースの生徒の発表、校内案内、そして質疑応答等を行ってきた。

令和6年度は、学校参観会として中学校の先生方に本校の授業を中心に観て頂き、さらに本校への理解を深めてもらう場とするため、6月26日(木)、27日(金)の2日間にわたり平常日課の授業を自由に観ていただく場を設けた。

○【塾対象学校説明】 申込不要「9月11日(木)・12日(金)」開催 9:00～16:00

県内の塾経営者、指導者等を対象として開催し、レファレンスルームにて、学校紹介や募集要項の説明、こども保育コース生徒の発表等で本校への理解を深めてもらった。

○【首都圏進学フェア】 幕張メッセ：8月3日(土)・4日(日)

NPO法人親子進路応援センター主催による「首都圏進学フェア」は、県内最大規模の進学相談会である。幕張メッセ国際会議場のほか、成田や柏、木更津などでも開催され、本校では可能な範囲で参加している。特に幕張では、本校のブースにも多くの相談者が立ち寄ってくれた。これらの進学フェアについても、本校を紹介するうえで欠かすことのできない進学相談会の場となっている。

○広報媒体の活用

学校案内・パンフレット・ホームページのほか、ユーチューブ、雑誌などのメディア媒体

や、電車・バス、建物、看板・電柱などの広告媒体などをおして、本校の魅力を発信してきたが、さらに工夫とアイデアをもって広報活動の充実を図る必要がある。昨年度はマイクロドローンによる動画撮影を実施し、よりインパクトのある内容で動画制作することができたが、引き続き、ホームページのリニューアル化や、生徒にも母校を訪問してもらい、自分の成長した姿を見てもらうことを推奨しながら、本校の魅力を発信していきたい。

【女専・こども園との連携】

- 千葉女子専門学校は系列校であり、卒業生の進学先として重要な位置づけにある。また、普段の学習活動における相互協力の関係にあり、これまで職員間の意思疎通と連携強化を図りながら推進してきたところであり、今年度も多数の生徒を受け入れてくれた。
- 「こども保育コース」の生徒は、聖こども園で保育実習を受けている。多忙な年間行事の中での実施のため、円滑に進めるためには相互の調整を図ることが重要である。令和6年度は、11月14・15日と11月19・20日に2年生が、5月27～29日と5月30～31日に3年生が、それぞれクラス毎に保育実習を行うことができた。また、9月18日(水)には、「年少児むけのオモチャ作り」という1年生の家庭総合の夏季休業中の課題をおして製作したオモチャを実際に使って、聖こども園の年少児と触れ合う体験学習を行うことができた。

【その他学習環境整備等】

- これまでも照明器具のLED化、ICT教育の一環としてiPadの導入、空調機の更新など、学習環境の整備に取り組んできたところですが、令和6年度は体育館の冷房化を行うことができた。運動中の熱中症対策や夏場の暑さ対策、避難場所としての環境整備もさることながら、本校の場合は近隣住宅と隣接している関係もあり、窓や扉を開放していると、騒音に対する苦情が出てくるため、体育館への冷房化は重要課題であった。

【主な継続課題等】

- 基礎基本の定着を図ること(本校の継続的な学習指導の徹底)
- 広報活動の更なる充実を図ること(魅力ある学校づくりをめざす)
- 職員研修体制の充実(指導力および質の向上)
- 地域と調和した部活動の活性化(日頃の練習活動が発揮できる環境づくり)
- 校舎を含めた施設設備等の充実(老朽化対策や学習環境の見直し)

(3) 千葉女子専門学校附属聖こども園

【教育・保育目標】

幼保連携型認定こども園における教育及び保育の目的は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成することにある。それらの目的の達成のため、本園では以下のとおり方針や目標等を掲げ日々実践に取り組んでいる。

- (1) 教育・保育方針 「かしこく、たくましく、心健やかな子」
- (2) 教育・保育目標：
 - ①学びの芽を育て、生涯学習の基礎を培う
 - ②自己を発揮し、たくましい体と優しさを身につける
 - ③互いの気持ちを伝え合い、情操豊かな心を育てる
- (3) 個別目標
 - 幼稚園 ----- ①しなやかな心と体の発達を促す
 - ②協調性を養う
 - ③「集中力」と「達成感」を身につける
 - ④「いのち」の大切さを知る
 - 保育部 ----- ①信頼感や思いやりの心を育てる
 - ②基本的生活習慣の自立を養う
 - ③運動機能の基礎を身に着け健康な体を作る
 - ④遊びを通し、想像力/自主性/責任感などを育む

【教育・保育の展開】

教育・保育要領に沿った、それぞれの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらいや内容、並びに年齢や発達段階に応じた指導計画等を組み立てながら日々の教育・保育活動に取り組んできた。

《ねらい》

【0歳児】

- ・特定の大人と愛着関係を築いた上で、心地よく生活する
- ・一人一人の生活リズムを大切に、食欲睡眠排泄などの生理的欲求を満たす
- ・体の動きや表情・喃語を受け止めてもらい、応答による言語が芽生える
- ・一人一人の発達に応じて歩行・言葉の発達を促し、身近な環境に興味・関心を持つ

【1歳児】

健康	歩行を楽しみ行動範囲が広がる
人間関係	保育教諭や友だちに関心を持ち、模倣遊びや共に過ごす事の喜びを味わう
環境	安全で活動しやすい環境の中で、好奇心が高まり行動範囲を広げる
言葉	保育教諭や友だちと、簡単な言葉のやり取りを楽しむ
表現	泥・水・紙・粘土などいろいろな素材に触れ、手先・指先や全身で遊ぶ

【2歳児】

健康	自分でトイレに行き、排泄の始末や手洗いをしようとする 生活や遊びを通して、手先・指先及び全身を使う事を楽しむ
人間関係	甘えや自己主張を受けとめてもらいながら、安心して自分の気持ちを表す 友だちとの関わりを通して一緒に遊んだり、同じ行動をしたりして楽しむ
環境	草花や小動物に触れて遊び、身近な自然に関心を持つ
言葉	保育教諭や友だちとの言葉のやり取りを楽しむ
表現	いろいろな素材や道具に興味を持ち、描いたり、作ったりしながら自分がイメージしたものを表現しようとする

【年少】

健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう
人間関係	こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ

【年中】

健康	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする
人間関係	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する 楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ
環境	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り 入れようとする
言葉	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う 喜びを味わう
表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ

【年長】

健康	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する
人間関係	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける
環境	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに 対する感覚を豊かにする
言葉	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言 葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる
表現	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ

(1) 乳幼児保育の指導体制

0歳から2歳までの保育は、年齢別にクラス編成を行っているが、集団との関わりをとおして社会性を育む観点等から、活動そのものは一緒に進めている。

(2) 合同保育の様子

3歳から5歳までの園児に対する合同保育（9時～14時位）については、ぼんだ組、いちご組、カンガルー教室からの持ち上がりの園児が多いため、1号・2号の分け隔てなくスムーズな園児活動が定着している。教室では、工作遊び、手遊び、音楽表現などの活動をとおして情操教育の充実を図っている。

(3) 預かり保育等の充実

「預かり保育」は、朝7時～8時30分、夕方14時30分～18時00分の時間を有料（通常1時間当たり1,900円、30分100円、時間帯により割引有り）で行っている。また、「バス待機預かり」を14:15から最後のバス出発まで無料で、2号・3号認定の子の預かり保育は18時を限度に、それ以降は、全園児を対象として20時まで「延長保育（1時間当たり3歳未満3,000円、3歳以上1,900円）」を行っている。

《シフト制により職員、パートを配置して対応》

- 7:00～ 8:30 (1号・2号・3号短時間保育認定 …有料)
- 14:30～20:00 (1号 ………………有料)
- 16:30～20:00 (2号・3号短時間保育認定 ………………有料)
- 18:00～20:00 (2号・3号標準時間保育認定 ………………有料)

(4) 各種未就園児教室等の実施

2歳児の子どもだけを対象としたものや、親子を対象としたもので、これらは子育て支援等を目的として実施しているものであり、保護者や地域から園への理解を深めてもらう観点からも重要な位置づけになっている。

①カンガルー教室 (親子1・2歳児クラス)

担当教諭 3名で対応
 実施日 月2回程度 金曜日10:00～11:30
 人数 1クラス20組程度
 料金 実費年2,000円(教材費・保険料)

②いちご組教室 (2歳児クラス 親子分離、園児のみ)

担当教諭 3名で対応
 実施日 週2日 火・木 9:00～14:00 (子育て支援として実施)
 人数 1クラス7名程度
 料金 7,500円 (弟妹割引あり)

③未就園児親子教室 (1・2歳児親子クラス)

担当教諭 4名で対応
 実施日 月1回、年8回程度(次年度の入園へと繋いでいる)
 人数 1回15組親子程度
 料金 無料

④子育て交流のおへや いちごみるく教室 (0・1歳児親子) 令和5年度から実施。

担当教諭 3名で対応
 実施日 月1回程度(水) 10:00～11:30
 人数 15人程度
 料金 無料

※ なお、2歳児クラス及び未就園児クラスにおいて、満3歳に達した園児の保護者から、3号認定児から1号認定児に切替えたいとの要望があることから、従来の学級編成にはない「満3歳児クラス」を「もも組」として12月1日から試行的に設置した。

【もも組】 (満3歳児クラス 園児のみ)

担当教諭 3名で対応
 実施日 週5日 8:30～14:30 預かり保育、園行事への参加あり
 人数 10名
 料金 保育料 無償(環境充実費・給食及びおやつ代・預かり保育料金徴収)

【各種行事の取組み】

子どもの成長・発達にとっては、行事は欠くことのできない保育活動の一つである。子どもの成長の節目をお祝いする行事（入園式・卒園式・誕生会）や、伝統的な行事（ひな祭り・七夕祭り・豆まき）、子どもの日頃の成長、成果を発表する行事（運動会・お遊戯会・発表会・作品展）、体験や活動の幅を広げる行事（遠足・お泊り保育・芋ほり）、親子・保護者同士の交流を深める行事（保育参観・親子遠足）など、実施する行事の目的や意義を明確に捉えながら年間計画を立てている。令和6年度の主な取組みは以下のとおりである。

- 【入園式】 4月10日（水）10：00～10：50
来賓等を招き、保護者も2名とし、46名の入園児を迎える。
- 【親子遠足】 4月26日（金） 現地集合・現地解散 稲毛海浜公園。
- 【保育参観】 幼稚園：1回目「6月 4日（火）～6日（木）」
2回目「1月28日（火）～1月30日（木）」
保育活動の公開を実施した。
保育部：5月20日（月）～22日（水）
※日常保育で得ることのできない親子の様子を知ることができた。
- 【夕涼み会】 7月6日（土）学年毎、保護者2名。
園庭で、アンパンマン音頭、どうぶつ音頭などで盆踊りや、ヨーヨー釣り、きんぎょすくい、ゲームなどで縁日気分を味わう。
0・1歳児も参加して日本のお祭りをテーマに親子で楽しんだ。
- 【お楽しみ保育】 7月20日（土）16：00～21：00
これまでの「お泊り保育」を「お楽しみ保育」として、泊まらずに夕方から夜にかけて実施。（打ち上げ花火も行った。）
- 【秋の運動会】 10月5日（土）運動会 8：45～12：00
年少（遊戯、個人競技、クラス対抗競技）
年中（パラバルーン、クラス対抗競技、個人競技、クラス対抗リレー）
年長（組体操&遊戯、クラス対抗リレー、個人競技、クラス対抗競技）
※保育部の2歳児は、年少と一緒に競技に参加して楽しむことができた。
- 【お誕生会】 原則毎月実施。
- 【クラスバス遠足】 芋掘り体験をとおして収穫の喜びを味わう。園児のみ参加で市内の芋畑まで園バス利用。 10月10日（火）保育部、年少
10月16日（水）年長 10月17日（木）年中
- 【ハローウィン】 10月25日（金）英語教室とコラボ、仮装して楽しむ。
- 【クリスマス発表会】 12月7日（土）クラス毎、1家庭2名まで。
保育部は、12月19日（火）に2部制で実施。保護者2名。
- 【卒園式】 3月15日（土） クラスごと前半と後半に分けた2部制、保護者2名まで。

【園外行事について】

- 近隣の小学校とは、入学式・卒業式に参加し合っている。また、中学校からの保育体験や、ジェッツ、マリーンズ、ヤクルトなどの外部来訪による行事を行っている。

【行事の駐車場について】

- 令和6年度も大きな行事の保護者参加を学年毎としたため、園の駐車場を入れ替え制で利用ができ、近隣小中学校の一部を駐車場として借用した。

【バス運行】

- 31年度より委託業者を西崎観光からメンテナンスジャパンへ移行している。
- かいひんコース・みはまコース・みなとコースに分かれ、30名ほどが利用している。
令和6年度は2号認定児が増えたため、バス利用者がやや減少気味となった。
- バスの取り残し事故がないように、乗降時の園児の確認を徹底した。

【関係部署との連携強化】

- 保育部と幼稚舎との職員同士の共通理解を図りながら保育活動を進めることは運営上の重要な要である。朝の打合せ、職員会議、職員同士の声かけ等をとおして園児活動が円滑に進むように取り組んできた。
- 専門学校の学生及び聖心高校の「こども保育コース」の生徒に対する保育実習の受け入れを例年どおり行ってきた。子どもたちもお姉さん先生との交流を楽しみにしている。また、職員も新鮮な刺激や気づきがあり、保育の向上にもつながり、連携強化を図りながら相互の交流を図ることは意義深い。

【安全・安心な保育環境の整備】

- いつ、どのようなことが起きても適切な対応ができるように保育環境の安全点検に努めてきた。施設設備等に起因する大きな怪我や事故等の発生はなかった。
- 6年度は、幼稚舎と保育部を繋ぐ渡り廊下の破損があり修繕した。また、ペランダの軒下に設置してあるオーニングテントアームの損傷により交換工事を行うなど、子どもたちの活動に支障がある個所の完全確保に努めた。

【その他の課外活動】

- 課外活動は、サッカーと英語を行っている。
 - ・英語 … 正課英語のある金曜日 14:15～15:00（年中長希望者のみ）
 - ・サッカー … 火曜日 14:30～15:30（年中希望者のみ）
木曜日 14:30～15:30（年長希望者のみ）

【その他諸課題等】

- 職員の労働環境も、働きやすい環境が少しずつ整備されているが、こどもの人数によって左右される問題であるため、今後も継続して取り組んでいく。
- 無駄を省き、効率よく仕事や作業ができるように、今後も工夫してその改善に努めていく。
- 園内外の研修や講習会等に積極的に参加し、保育の質の向上に繋げていく。
- 保護者の協力、声を取り入れた園の運営、保護者と共に歩む園活動の充実を図る。
- 子育てに不安を抱えている保護者が多いことから、その支援活動に取り組んでいく。